

1. 質的調査方法

(1) 観察

(2) 参与観察

暴走族のエスノグラフィー

佐藤郁哉 1980年代

暴走族の仲間に入って、インタビューや観察を行う

ハマータウンの野郎ども

原題 "Learning to Labour: How Working Class Kids Get Working Class Jobs"

Paul E. Willis 1970年代

おちこぼれといわれる中学生の世界を描く

(3) インタビュー(面接)

自由連想法

自由連想法とクラスター分析による水辺に対する住民意識の研究

須賀ほか 土木学会論文集, No.458/IV-18, 91-100 (1993年)

本研究では霞ヶ浦を研究の対象とし、霞ヶ浦北西部の高浜入りに面している玉里村(以後玉里と書く)、高浜入りから約5km北西に入った石岡市(石岡)の住民に対して水辺に関するアンケート調査を行った。この調査では、回答者に対して「水辺」という言葉から連想することを自由な形式で記述してもらった方法を採用した。この調査方法は自由連想法と呼ばれている。調査の結果に対してクラスター分析を適用し、調査地域毎に回答者全体を共通の意識を持ったいくつかのグループに分類した。その結果から調査地域による水辺意識の違いを調べた。

表 「水辺」という言葉から連想された単語のクラスター分析結果

X ₁	X ₂	X ₃	X ₄		X ₅
あおこ 悪臭 夏 洪水	鳥 とんぼ	川 小川 湖	子供 遊び 釣り 水遊び	水泳 水鳥 魚 水草	葦 まこも 砂

X ₆			X ₇	X ₈	X ₉	
水 きれい 露ヶ浦 泳ぐ	小魚 岸 景色 澄んだ	波 静か さざ波	花 草 春	めだか せせらぎ	汚れ ごみ 散歩	人 心 生活

大学生の心理的自立に影響する要因に関するパイロット研究 —半構造化面接による検討—

山田裕子¹⁾* 宮下一博²⁾

¹⁾東京学芸大学連合大学院教育学研究科・博士課程 ²⁾千葉大学・教育学部

A Pilot Study of Factors Influencing Psychological Independence of University Students

—Explored by Semi-Structured Interview—

YAMADA Yuko¹⁾ MIYASHITA Kazuhiro²⁾

¹⁾Doctoral Course The United Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University, Japan

²⁾Faculty of Education, Chiba University, Japan

本研究の目的は、心理的自立およびその発達に影響した要因に関して、大学生自身がどのように理解しているかを探究するために、質的研究法によるパイロット研究を行うことである。3名の大学生に対して半構造化面接を実施し、その面接記録から抽出されたデータを、KJ法を用いて1枚の図解にまとめた。心理的自立に関しては、そのイメージは曖昧で、経済的自立と切り離して考えることが難しいとしながらも、自己中心的でなく相手や全体の利益を考えて行動できる人や、やりたいことを持ちつつも、その目標に向かって生活や行動面を律することができる人のイメージが挙げられた。心理的自立発達に影響した要因に関しては、親の養育態度による影響は意識されておらず、親友や相談に乗ってもらえる先輩との出会いによる影響が大きいと感じていることがわかった。心理的自立に関する質的研究法の可能性と今後の課題について検討した。

本調査では、心理的自立を以下のように定義します。

心理的自立：

「自分の感情や考え、行動に関して自ら主体的に管理・決定すること、かつ、それらに関して責任をもつこと」

〈半構造化面接における主な質問内容〉

1. 上記の定義をもとに、心理的に自立している人を具体的にイメージしてみると、それはどのような人ですか？
2. 上記の定義から考えると、あなた自身はどの程度心理的に自立している状態だと思いますか？0（全く自立していない）～100（完全に自立している）で評定するといくつくらいでしょうか？なぜそのように思いますか？
3. ここまでのあなたの心理的自立発達に影響を与えたと思われる人物や人間関係について教えてください。
4. ここまでのあなたの心理的自立発達に影響を与えたと思われる出来事について教えてください。
5. 10年後の自分について考えた時、今と比べてどれくらい心理的に自立した状態になっていると思いますか？（0～100評定）なぜそのように思いますか？

(4) 日記式の自由記述

まえ くば なごやがいくせきしみんちょうさ さんしょう
前に配った名古屋外国籍市民調査を参照

(5) ケーススタディ (事例調査)

利用者プロフィール

氏名：Gさん (80歳/男性)
居住状況：グループホーム入所
身体状況：認知症、要介護度3
親族状況：結婚歴あり。子供なし。



事例7

本事業利用のきっかけ

本人はアパートで1人暮らしをしていたが、脳梗塞の後遺症により右上下肢不随となり、グループホームへ入所となる。外出も困難になり、金銭管理等の支援が必要となるが、近くに頼れる親戚もなく、担当のケアマネージャーより相談が入る。

援助の内容

月1回グループホームへ訪問し、利用料等の支払いの代行を行う。金融機関の払戻し伝票への署名は利き手ではない左手で署名をしてもらっていたが、本人の努力により右手で署名ができるまでに回復。その後の入院中も変わらずに月1回支援をし、入院費等の支払いの代行をした。独居生活をしていたので、支援当初は口数も少なく、グループホームでの生活に慣れるか心配があったが、訪問するたびに表情が明るくなり、施設での生活状況だけでなく、これまでの生活状況などご自身のことを話してくださるようになった。

福祉サービス利用援助

日常的な金銭管理サービス

書類等預かりサービス

利用者プロフィール

氏名：Hさん (51歳/女性)
居住状況：県営住宅で家族と生活。
身体状況：知的障害、療育手帳所持
親族状況：2人の子供と生活。親戚とは疎遠。



事例8

本事業利用のきっかけ

本人は現在、生活保護を受給中。軽度の知的障害があり、意思の疎通や家事全般に支障はないが、所持しているお金をあるだけ全部使ってしまう傾向があり、家賃や公共料金などの滞納があった。就学中の子どももおり、このままの状況では親子一緒に地域で生活することは難しく、金銭管理の支援を必要と感じたケースワーカーより相談を受けた。

援助の内容

一度に多くの現金を渡してしまうと、すぐに使ってしまうことがあるので、1回の支援で約10日分の生活費を払い戻し、月に3回支援している。本事業利用前にあった家賃・公共料金などの滞納は、利用後、少しずつ納付し完納することができた。最近では、食費だけでなく子どものための衣類や文房具類などにも使うことができるようになった。また、今は近所に知り合いが少ないので、子どものことについての相談相手も担っている。

福祉サービス利用援助

日常的な金銭管理サービス

書類等預かりサービス

(6) 福祉業務記録の分析

「三田学会雑誌」103 巻 4 号 (2011 年 1 月)

被保護母子世帯における貧困の世代間連鎖と生活上の問題

駒村康平 道中隆 丸山桂

要旨

本稿では、X市の個票データを使い、生活保護被保護母子世帯の持つハンディや生活保護受給期間や就業を規定する要因について数量的に分析した。分析の結果、母親の3割以上が、成育期に生活保護を経験しており、高卒未満という学歴や10代出産など、成育期に発生した事柄が現在の生活の負荷になっていること、就労阻害要因には、母親の健康状態と学歴があること、DV、児童虐待、母子の健康状態の悪化など、家族内のハンディが累積・集中していることが確認できた。

3. 本研究で用いるデータ

用いるデータは、大都市圏近郊のX市における2回の調査である。2008年調査(2008年9月1日から11月末日の間に調査した214世帯、被保護母子世帯に対する抽出率15.2%)と2010年調査(2010年2月1日から3月末日の間に調査した104世帯、被保護母子世帯に対する抽出率9.4%)で、いずれも調査期間中に廃止した世帯は除外している。調査項目の記述は、被保護者本人の申告、医師の「医療要否意見書」や「医療レセプト」の記載傷病名などの客観的な健康データに基づき、ケースワーカーによって記載されている。調査データは秘匿処理を施されているが、データ収集時に両者の間で同一世帯の重複はないことを確認している。

表1 記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
本人年齢(歳)	318	17	61	35.61	7.85
高卒以上ダミー(高卒以上=1)	318	0	1	0.45	0.50
母就労ダミー(就労=1)	318	0	1	0.42	0.50
本人の稼働収入(円/月)	318	0	205,000	32,702.66	47,964.86
世帯人員(人)	318	2	7	2.92	0.85
受給期間(月数)	311	2	183	38.37	31.60
最低生活費(円/月)	318	123,690	362,840	215,815.44	45,442.08
世代間の生活保護受給歴(あり=1)	318	0	1	0.32	0.47
過去の生活保護受給歴(あり=1)	318	0	1	0.40	0.49
10代の出産経験(あり=1)	318	0	1	0.19	0.39
DV経験(あり=1)	318	0	1	0.22	0.41
非嫡出子(あり=1)	318	0	1	0.19	0.39
児童虐待経験(あり=1)	318	0	1	0.09	0.29
母病気ダミー(あり=1)	318	0	1	0.53	0.50
母精神疾患数	318	0	3	0.38	0.67
母身体疾患数	318	0	7	0.48	0.93
子病気ダミー(あり=1)	318	0	1	0.25	0.43

注1: 受給期間(月数)のみ、不明者が7名いるため、標本数が311人である。

2: 「最低生活費」とは、生活保護法に定める方法で、X市の級地別に世帯主、世帯人員の年齢などの情報から居宅第1類、第2類以外に母子加算、児童養育加算、教育扶助、住宅扶助を合計した金額である。

(7) アクションリサーチ

きょういく しんりがく かんご ふくし おお
教育、心理学、看護、福祉で多い

ちほう りゅうがくせい しゅうしょくしえん かん 地方における留学生の就職支援に関するアクションリサーチ

紙矢健治・三代純平

けんきゅうほうほう 2. 研究方法

ほんじっせんほうこく ちほうだいがく まなぶりゅうがくせい しゅうしょく しえん きかく
本実践報告は、地方大学で学ぶ留学生の就職を支援するために企画されたクラスである「日本事情」に関するアクションリサーチである。アクションリサーチとは、研究と実践とうごう かたち けんきゅう つうじて じっせん めざ すけんきゅう じっせん うんどうを統合した形で、研究を通じて、よりよい実践を目指す研究 = 実践という運動である。わたしたち ほんほうこく きじゆつ こうひょう こうひょう ともな とおつまり私たちは、本報告の記述と公表、さらには公表に伴うフィードバックを通して、「日本事情」をよりよい授業に、つまり徳山大学の留学生に対する就職支援をよりじゅうじつ もくてき もくてき じゅうらい じっしょうしゆぎてき充実したものにすることを目的としている。その目的は、いわゆる従来の実証主義的なけんきゅう いっぱんか りろん りっしょう こうちく おお こと研究のような一般化できる理論を立証、あるいは構築することとは大きく異なる。そのためけんきゅう ほうほうろん きじゆつ しかた もくてき じゆん ことめに、研究の方法論や記述の仕方は、その目的に準じて異なったものになる。…

アクションリサーチの記述は、次の5つの要素を含むべきであるとする。

1. じぶん じゆぎょう じっせんないよう
自分の授業の実践内容
2. きょうしがわ がくしゅうしゃがわ しょう
教師側・学習者側に生じたこと
3. きょうし かんが かん
教師が考えたこと・感じたこと
4. じっせん こうじょう さんこう ぶんけん など
実践の向上のために参考にした文献やアドバイス等
5. うま しっぱい お こ
上手いかなかったこと・失敗・落ち込みなど

なお、じっせん きじゆつ せいさつ さんしょう しりょう たんとうしゃ かみや
実践を記述し、省察するにあたり参照する資料は、クラスの担当者であった紙矢による授業記録、じゆぎょうきろく さんよかんさつしゃ さんか みつしる がくしゅうしゃ たい おこな
参与観察者として参加した三代のフィールド・ノーツ、学習者に対して行ったニーズ調査、授業ヘゲストスピーカーとして来てくださった企業の方々へ行ったインタビュー記録の4点である。

(8) その他

わたし くろいよる
私のように黒い夜

1950年代 ジョン・ハワード グリフィン John Howard Griffin

こくじん じょうきょう し とくしゆ たいけん
黒人の状況を知るために、特殊メイクで体験してルポを書いた。

2. 質的調査方法の注意点

3. 質的調査の分析方法のいろいろ

(1) 内容分析(テキスト分析)

戦後日本の高等教育関連議員と政策課題 - 国会における発言量と内容分析 -

名古屋高等教育研究 第13号(2013) 橋本鉦市

<要旨>

本稿は、戦後日本の公式な政治アリーナである国会(文教関連委員会)のなかで戦後65年にわたる国会議員の発言(量的推移と内容変化)を取り上げ、その計量的な分析を通じて高等教育界における政治アクターと政治課題を解明しようとするものである。「国会会議録」をテキストとしその内容分析を行った結果、高等教育関連議員として衆議院236名、参議院137名、民間3名からなる政治家376名を特定し、彼らは中核的な集団であるコアグループとそれを取り巻く中間ならびに周辺グループから構成されること、グループ間ならびにコアグループでは衆参議院間でそれぞれその発言活動に大きな差異が見られること、また1960年代から70年代前半期が最も高等教育関連の審議が活発でその後は低調になっていくこと、さらに同時期にはコアグループを中心に拡大・整備といった課題が頻繁に取り上げられたものの2000年代後半からは教育や学生に関するテーマへとシフトしていくこと、などが明らかとなった。

(2) 会話分析 (エスノメソドロジー)

「ウェルフェア・リングイスティクスを^{かんがえる}考える^{じぞくかのう}：持続可能な^{ちいきしゃかいけいせい}地域社会形成にむけて」

南山大学総合政策学部 渡辺義和 2012年3月22日

患者-医師間に潜む要因

- 知識・経験の差 (医療に関する専門知識や経験の非対称性)
- 社会的地位の差 (社会的評価の非対称性)
- 強者 (問題解決のカギを握る人) vs. 弱者 (問題を解決してもらいたい人) (立場の非対称性)
- 時間制限がある (診療時間の制約)
- 病院等で行われる (場所の制約)
- 白衣、聴診器、注射器、椅子、机の配置等の指定がある (環境的制約)

医療におけるコミュニケーション問題

- 会話形式上の問題
 - 制度的会話 vs 通常会話 (Heritage & Clayman, 2010)
 - 医師のシナリオに従って進む (Rogers & Todd, 2000)
 - On-line commentaryと不適切な抗生物質の処方との関係 (Heritage et al., 2010)
- 患者-医師間の知識差、社会的ステータスの差
 - 医師による一方的な質問、either/or的質問、非対称性 (West, 1983)
 - 無知に見えることを恐れ質問をしない (Roter & Hall, 2006)

(4) 生活史 (ライフヒストリー)

生活史研究の系譜 記述と分析をめぐる課題

佛教大学大学院 社会福祉学研究科 第 39 号 (2011 年 3 月) 中野加奈子

「生活史」という言葉はソーシャルワーク実践においては馴染み深い語である。それは「^{せいいくれき}成育歴」「^{せいかつれき}生活歴」等いくつか類似の語が用いられているが、多くは当事者の生涯や彼らの所属する家族の生活の歴史を指している。そして、^{じどう}児童、^{こうれいしゃ}高齢者、^{しょうがいしゃ}障害者等社会福祉のどの領域においても、生活史は当事者の理解や生活問題の^{あそ}アセスメント及び^{しえんけいかく}支援計画には^か欠くことのできない^{じょうほう}情報であり、^{しりょう}資料となっている。

なつやすみ かだい じちたい しゃかいちようさ よ 夏休みの課題 自治体の社会調査を読んで、まとめる

1. 自分の住んでいる地域の社会調査を1つ選んで、内容を紹介するレポートを提出してください。

こうれいしゃじつたいちようさ こそだてしえんちようさ しょうがいしゃじつたいちようさ ちいきふくしちようさ ちようさ
高齢者実態調査、子育て支援調査、障害者実態調査、地域福祉調査、ボランティア調査など

しやくしょ まちやくば しゃかいふくしきょうぎかい あいちけんとしよかん
市役所や町役場、社会福祉協議会に行くとあります。愛知県図書館でもあります。
なごやしやくしょ にしちようしゃ けんちよう くやくしょ じょうほう
名古屋市役所の西庁舎、県庁、区役所などの情報センターにもあります。

わからない人は、インターネットに載っている次の調査のどれかでもいいです。

- | | |
|------------|---|
| 1) 知的障害 | http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000002291.html |
| 2) 身体障害 | http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000002277.html |
| 3) 市政アンケート | http://www.city.nagoya.jp/shiminkeizai/page/0000079853.html |
| 4) 外国人調査 | http://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/cmsfiles/contents/0000080/80743/gaiyoubann.pdf |
| 5) 子育て調査 | http://www.city.nagoya.jp/kodomoseishonen/cmsfiles/contents/0000058/58839/kodomokateigaiyou.pdf |

2. レポートの書き方

A4サイズ 1～2枚で、次の点について書く

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の対象者（高齢者など）
- (3) 調査方法（アンケートなど）
- (4) 調査報告の形式（報告書か、ホームページかなど）
- (5) 調査結果を何か1つ紹介してください（感想でなく、結果を書く）
- (6) 調査結果についての、自分自身の感想

3. 提出日

8月25日（木）に、授業で提出してください。

質問は メールで ozakiyuri@gmail.com 電話は携帯 070-5642-2716

今後の予定

- | | | | |
|-------|--------|-------|---------|
| 8月25日 | レポート提出 | 9月1日 | レポート発表会 |
| 9月8日 | 調査の倫理 | 9月15日 | ミニテスト |